

防災講演会

～身近な防災、
真剣に考えてみませんか～

- いざ災害が起きたときの行動を一人ひとりが考えることで、私たちが今取り組まなければならない本当に必要な備えについてお話します。
- ▼とき 6月24日(日)
午前10時～12時
- ▼ところ 大磯中学校体育館
- ▼演題 『家族の命を守るために』
- ▼講師 宮崎 賢哉氏
防災ソーシャルワーカー
- ▼その他
会場の都合により、お車でのご来場はご遠慮ください。

津波対策で海拔表示板を設置

避難時の目安、町内69か所に

身近な地域の海拔を知ることで、避難に役立てていただくため、町施設等に海拔のメートル数に応じて3色(海拔約5m未満は黄色、約10m未満は橙色、約10m以上は青色)の表示板を設置しました。
(※海拔表示の数値は下水道の水準点等を利用していません。)



▲地域会館(台町会館)に設置された海拔表示板

災害発生時には

職員が防災ベストを着用

災害発生時には、災害対策に従事する町職員を見分けやすいように、機能性及び夜間の視認性に優れた防災ベストを着用します。



【前面】



【背面】

町長が走る!!

【国府祭】

5月5日に国府祭に参加しました。

国府祭は、皆さんご存じのように古くから行われている祭事で、平安時代から続いているといわれています。一宮・寒川神社、二宮・川勾神社、三宮・比々多神社、四宮・前鳥神社、平塚八幡宮と六所神社が参加しています。

国府祭は「座問答」が有名ですが、実は前日の4日から始まっており、地域の子どもたちも参加して「浜降り」が行われ、神事ですくった砂で祭りの会場や参道が清められます。

国府祭当日の朝、六所神社以外の五社は、神輿を伴い、神揃山に向かいます。

正午には、神揃山で「座問答」が行われました。寒川神社と川勾神社との間で上位を争いましたが、比々多神社の仲裁で、やはり決着は来年に持ち越しになりました。

「座問答」が終わると五社の使いが六所神社に向かう「七度半の迎神の儀」が行われ、「総社宮立」を行い、私は「国司(今で言う知事)」に扮し、馬に乗り「大矢場(馬場公園)」に向かいました。その後も神事は午後5時まで行われました。

伝統ある祭りに参加できることは大変光栄なことであり、歴史の重さを感じることができ、心が洗われるようでした。

大磯町長 中崎 久雄

◎問い合わせ 政策課 ☎内線206



▲「国司」に扮し、「大矢場(馬場公園)」へ